



スポーツ吹矢競技会で優勝
伊藤範夫さん・72歳
広瀬町三丁目

次は満点を目指したい

9月19日、大田区総合体育館で第7回障がい者スポーツ吹矢競技会が開催され、車椅子片麻痺の部で優勝した。全国大会へ出場するのは2回目。初めて出場した昨年度の大会では3位に入賞し、今大会は初優勝を果たした。

競技は、部門ごとに決められた距離から矢を吹き、的を射た矢の位置で得点を判定。5本で1ラウンドとし、4ラウンドで勝敗を競う。

伊藤さんがスポーツ吹矢を始めたのは4年前。東公民館の文化祭を訪れた時、スポーツ吹矢の体験会があり、試しにやってみたことがきっかけだという。それ以来、東公民館で練習を行っている。

伊藤さんのスポーツ吹矢の段級位は現在1級。初段への昇段を目指して練習を積んでいる。

「的までの距離が2メートル伸びて8メートルになりました。1メートル離れるだけでも的の中心を狙うのが難しくなります。練習を重ね、今はこの距離でも的を狙えるようになりました」

高い目標を掲げる伊藤さん。大会2連覇と満点の夢を実現してほしい。

クロースアップ アップ。

新春の上州路を疾走

元日恒例のニューイヤー駅伝が1月1日、本市を発着点に開催。各地区の予選を勝ち抜いた37チームが7区間、100kmの強いからっ風が吹く上州路を駆け抜けました。沿道では市民の歓声がランナーを後押し。結果は、トヨタ自動車が4年ぶりの優勝を果たしました。



私とアーツ前橋

アーツ前橋
Vol. 9

この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第9回は、アーツ前橋の鑑賞サポーターの松本勉さんです。

鑑賞サポーターとの出会い
松本 勉さん・67歳

「こどもたちといっしょに作品鑑賞を楽しむサポーター大募集！」のチラシが私と鑑賞サポーターとの出会いでした。応募条件は、美術の知識、



ボランティアの経験は必要ないとのこと。「私の数少ない美術鑑賞経験でも大丈夫かも」と思い応募。仕事を離れてからは常々「ボランティアでお手伝いしたい」と思っていたので、良い時期でした。

研修で、対話型鑑賞を初めて勉強したときは「こんな鑑賞の方法があるのだ」と、驚きとともに新鮮な気持ちに。一人で静かに思いを巡らすだけでなく、グループで対話しながら楽しく鑑賞する方法は、やり取りの中でいろいろな人の考えが見えたり、仲良くなったりできるのです。

おしゃべりアーツアワーでは、実際に子どもたちと一緒に活動し、作品をとおしてそれぞれの感性に触れることができ、とても感動しました。

私の活動は2年目になりました。これから鑑賞者の会話を促し、感想や考え、意見を引き出し、作品を大いに楽しんでもらうという鑑賞サポーターの役割を忘れずに、子どもたちも自分も楽しんで続けていければ、と思っています。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144



幅広い世代が演劇を楽しむ

12月21日、市民文化会館で市民芸術文化祭「演劇発表会」を開催。劇団ペルソナ館と児童文化センター演劇クラブが「わが町」(ソートン・ワイルダー作)を公演。子どもから大人まで幅広い世代が観劇し、力の入った演技に惜しみない拍手を送っていました。



映画で助け合う心伝えたい

12月21日、シネマまえばしで映画「迷宮カフェ」完成記念上映会を開催。骨髄バンク普及のために企画されたこの作品は本市在住の帆根川廣さんが監督を務め、本市でも撮影が行われました。上映後、舞台あいさつも行われ、観客は撮影の様子に聞き入っていました。